

The background is a green-toned illustration of a coastal landscape. In the foreground, there's a body of water with a few small boats. To the right, a steep, rocky cliff meets the water. In the middle ground, there are rolling green hills and mountains. The background shows more distant mountains and a sky with a few birds flying. The overall style is a soft, painterly illustration in shades of green.

第3次 宇検村まち・ひと・しごと創生 総合戦略

目 次

1. 基本的な考え方	5
1-1 策定の趣旨・背景	
1-2 総合戦略の計画の期間と位置付け	
1-3 戦略づくりのプロセス（策定体制）	
2. 宇検村の現状	7
2-1 村を取り巻く環境及び概況	
2-2 人口ビジョンについて	
2-3 第2次総合戦略の検証と庁内ワーキングおよび事業者ワークショップから	
3. 基本理念と基本目標	11
3-1 基本理念「背伸びはやめた、宇検村人になろう」	
3-2 4つの基本目標	
3-3 総合戦略の全体指標（KPI）	
4. 基本目標ごとの具体位的施策	14
4-1 仕事の選択肢があるむら	
4-2 村の魅力を活かした関わりしろがあるむら	
4-3 子育てと学びの選択肢があるむら	
4-4 次世代を担う力を育み、結いでつながるむら	
5. 総合戦略の推進にむけて	19
5-1 戦略の効果的な推進にむけて	

1. 基本的な考え方

1-1 策定の趣旨・背景

「宇検村まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策 5 原則等を基に、奄美大島 5 市町村で策定した「奄美大島人口ビジョン」を踏まえ、基本理念や基本目標、具体的な事業をまとめ、宇検村における人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指すものです。

地方創生とは、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある地域社会を維持していくことを目的としている一連の政策です。本村も、しごとの多様化・産業振興・観光振興・生活環境の充実等により定住と交流促進につなげることで、人口減少および少子高齢化の進行に歯止めをかけ、村民が豊かに充実して暮らせるむらを目指しています。

令和 2 年に策定した「第 2 次宇検村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間終了に伴い、「第 3 次宇検村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下本戦略）」を策定することとなりました。なお、本戦略は近隣 4 市町村とも広域的に連携しながら進めていくこととします。

1-2 総合戦略の計画機関と位置付け

（1）実施期間

計画の実施期間は、令和 7 年度から令和 10 年度までの 4 か年の計画とします。通常総合戦略は 5 カ年ですが、今期と次期を 4 年間とし総合振興計画と策定期間をあわせて連動することで、推進力を高め、一体感を持って進めます。

（2）「第 2 次宇検村まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関係

「第 2 次宇検村まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、新たに宇検村に呼び込むことよりも、かつて宇検村に住んでいた人たちや、その二世・三世にあたる人たちとの関係を築き上げ、人口増加へつながられるような取り組みを進めていくことや、無理に新しいことを始めるのではなく、村にもとからある人や伝統などを活用することで『背伸び(たーしゃ)をやめ、住むことで人としての生き方を思い出せるような「宇検村人(ひと)」になれる』という考え方を提唱しました。この『背伸びをやめた、宇検村人になろう』という考え方は、本戦略において基本理念として引き継がれました。

（3）「第 6 次宇検村総合振興計画」との関係

村の最上位計画である「第 6 次宇検村総合振興計画」は令和 4 年に策定され、令和 5 年より実施されています。本戦略を検討するにあたり、村の概況や村の将来像、実施計画の個別事業等を戦略に反映しながら具体的施策を検討しました。

1-3 総合戦略の策定プロセス（策定体制）

本戦略の策定にあたっては、庁内で各課職員とともに第2次戦略の検証と本戦略の方向性を検討、具体的な施策と推進効果的な推進について全4回のワーキングを実施しました。また、並行して、産業振興、観光振興等に関わりのある事業者のみなさんに集まっていただき、ワークショップを開催しました。ワークショップでは、今後の村の産業への展望や行政との協働についての意見を収集することができました。

その後、パブリックコメントを行い、広く村民の意見を収集しました。

策定スケジュール

	11月	12月	1月	2月	3月
基礎調査、分析					
庁内WG					
関係者ワークショップ					
総合戦略の策定					
とりまとめ					
パブリックコメント					

2. 宇検村の現状

2-1 村を取り巻く環境と概況

(1) 近年の社会動向

宇検村を取り巻く環境として、以下のような社会情勢、変化があります。

新型コロナウイルス感染症の影響

コロナ禍は社会や経済に大きな影響を与えました。新たな暮らし方を模索する動きが生まれています。

人口減少・少子高齢化の進行

労働力や消費市場の縮小が懸念されます。地域の活性化や若者の定住促進、高齢化に伴う財政負担への対応が重要です。

自然災害・安全リスクの増加

気候変動による災害リスクが高まり、感染症流行の危険も増しています。行政や住民が連携し、安全性向上に努める必要があります。

環境問題と SDGs の推進

温暖化や生物多様性の損失が深刻化しています。脱炭素社会の実現や循環型社会の形成に取り組み、持続可能な未来を目指すことが求められます。

社会資本の老朽化対策

インフラの老朽化が進む中、財政難の中でも計画的な維持管理が必要です。将来の需要変化を考慮し、効率的な運営が求められます。

国際化と多文化共生

グローバル化が進み、外国人との共生が重要になっています。多文化共生社会を実現し、誰もが暮らしやすい環境を整える必要があります。

高度情報技術の発展 ～Society5.0 時代～

IoT や AI、ビッグデータの活用が進み、社会全体でデジタル技術の導入が加速しています。自治体の DX 推進計画やデジタル庁の設立により、行政サービスのデジタル化も進展しています。

価値観の変化・多様化

働き方やライフスタイルが多様化し、地方移住やワーケーションへの関心が高まっています。多様な価値観を尊重し、個々が能力を発揮できる社会の実現が求められます。

(第 6 次総合振興計画より)

（２）宇検村の概況

本村は、鹿児島県の南方 383km、北緯 28 度 17 分、東経 129 度 18 分、奄美大島南西部に位置しています。海拔 694m の標高を持つ「湯湾岳」があり、この頂から太平洋と東シナ海に浮かぶ島々が望めます。頂上一帯の国有林の一部は昭和 49 年 2 月国定公園に指定され学術 貴重な動植物が群生していることで知られています。

また、シマ(集落)は、焼内湾の沿岸に沿って点在しており、その入り江は天然の良港と

して遠近海漁船の避難港としても知られています。近年はマグロ等の養殖が盛んに行われています。村内全域の土地構成は 90%以上が山岳地帯で占められています。北に大和村、東に奄美市住用町、南が瀬戸内町に接し、山は主として島の東西を走る連峰で焼内湾を囲んでいます。

河川は急流で流域はほとんど山岳地帯で占められているため可住地は狭小であり、その中に小河川が流れているだけです。地質は全域を通じて中生代の湯湾層で島では最も古い地層をなし、珪質の頁岩、砂岩等からなり酸性土壌が強いです。

気候は、亜熱帯海洋性で年間平均気温 21℃年間を通じ降雨が多く、台風が毎年襲来し、冬季季節風とともに、農作物や住民生活に与える影響が大きくなっています。

（第 6 次総合振興計画より）



2-2 将来人口目標について

本村の昭和 55 年(1980 年)以降の総人口の推移は、「奄美大島人口ビジョン 2025」で示したとおり、30 年以上一貫して減少傾向にあります。



一方で国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)を基にした推計によると、2060 年の人口は前回時の 663 人から 979 人と 316 人ほど上がっており、2020(R2)年からの人口減少率 39.6%と推計されており、前期からは大幅な上方修正となりました。その内訳は年少人口 143 人(14.6%)、生産年齢人口 409 人(41.7%)、高齢人口 428 人(43.7%)となっています。また、生産年齢人口は 2020 年では高齢人口を超えているものの、それ以降は下回る見込みです。また、年少人口は 2035 年までは減少傾向であるものの、それ以降は 150 人前後で推移する見込みです。しかし、これは宇検村の人口比率から社会増等の影響を受けやすく、転出者が数名増ただけで大きく推計が変わる状況であることから余談を許さない状況であることは変わりません。

この窮地を脱すべく、宇検村では国の総合戦略・奄美大島総合戦略の内容を踏まえつつ、第 2 次戦略と同じく、宇検村らしさを見出しながらさまざまな具体策に取り組み、令和 42 年の人口を令和 2 年の総人口 1,722 人の約 8 割である 1,400 人まで引き上げることを目標とします。

奄美大島人口ビジョン 2025 による目標値

○社会動態 5 人増／各年

○自然動態 1 人増／各年

2-3 第2次総合戦略の検証と庁内ワーキングおよび事業者ワークショップから

庁内ワーキングや事業者ワークショップでは、宇検村の雇用や産業振興、観光振興、住環境等について様々な意見が寄せられました。現状の課題と方向性から、基本理念と目標を検討しました。

<仕事に関する意見>

- 現状の課題
 - 仕事が少ない、職種が限られている
 - 村の資源を活かした産業が少ない
- 目指す方向性
 - 仕事の多職化とその発信
 - 村の資源を活かした産業の創出

<観光と地域振興に関する意見>

- 現状の課題
 - 地域の魅力を十分に外に発信できていない
 - 観光客や村外人々が触れられる「村の特色」が不足している
- 目指す方向性
 - 特産品を活用した飲食やお土産の販売、体験プログラムの提供
 - 観光と村民の両方の視点を入れた情報発信
 - つながりを生かした関係人口の拡大（交流を通じた移住促進）

<子育てと教育に関する意見>

- 現状の課題
 - 子どもが学ぶ環境や部活動、塾の不足
 - 次世代の子どもたちが「帰ってきたい」と思える村をつくるための環境整備
- 目指す方向性
 - 「子育てが一番のむら」となるための支援制度
 - 子どもたちが英会話を習得できる、習い事ができるなど学びの選択肢の充実
 - 子育て環境の強化、維持
 - 進学、学びの格差を減らす

<地域のつながりに関する意見>

- 現状の課題
 - 世代間交流が限定的な面がある
- 目指す方向性
 - 住民同士の助け合いを生む関係づくり（交流の場）の拡大
 - 幅広い世代が集える場、趣味や特技を通じた交流機会の提供

<インフラと生活環境に関する意見>

- 現状の課題
 - 移住者が増えるための住環境が整っていない
 - 車の運転ができなくなった高齢者の生活が難しい
- 目指す方向性
 - 買い物や移動手段の整備
 - 村内で生活が完結できる環境づくり
 - 子どもたちの遊び場の整備や取り組み支援
 - 空き家の有効活用と移住の促進

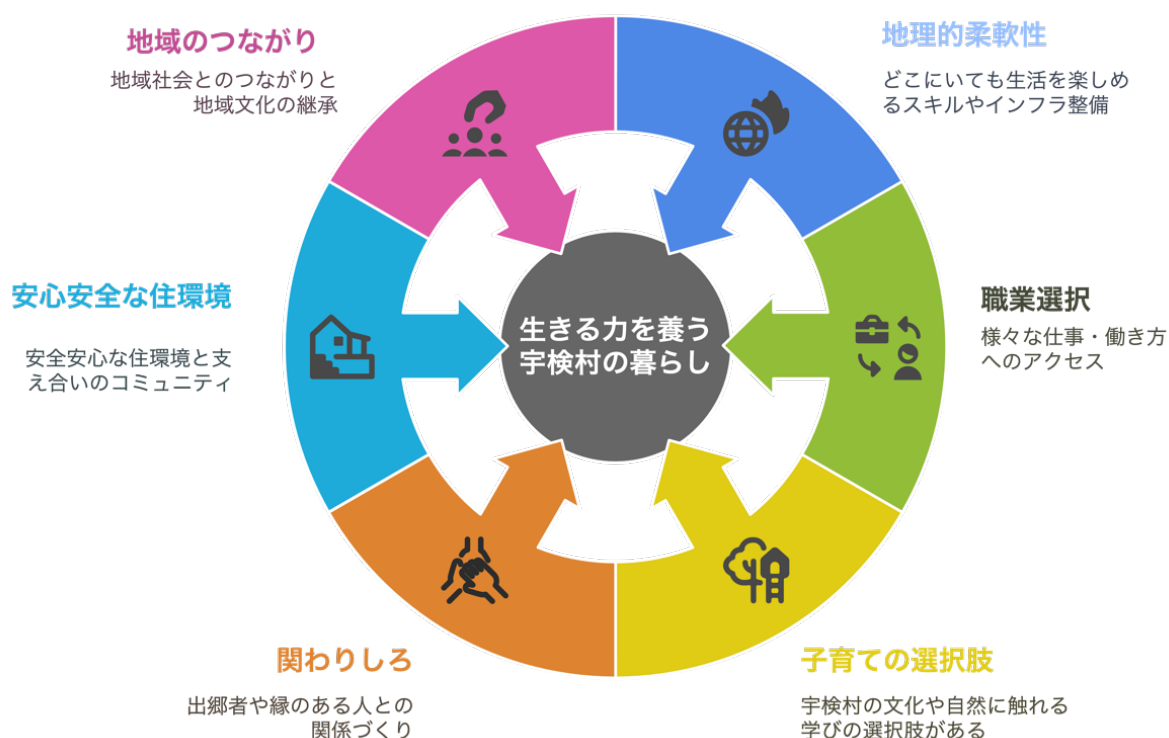
3. 基本理念と基本目標

3-1 基本理念

「^{たーしゃ}背伸びはやめた。^{ひと}宇検村人になろう。」

「第2次宇検村まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、新たに宇検村に呼び込むことよりも、かつて宇検村に住んでいた人たちや、その2世・3世にあたる人たちとの関係を築き上げ、人口増加へつなげられるような取り組みを進めていくことや、無理に新しいことを始めるのではなく、村にもとからある人や伝統などを活用することで『背伸び(たーしゃ)』をやめ、住むことで人としての生き方を思い出せるような「宇検村人(ひと)」になれる』という考え方を提唱、本戦略ではさらにこの考え方を磨き上げることとしました。

『「背伸び(たーしゃ)」をやめる』ということは、一過性の流行や事象に流されず、宇検村の持つ魅力を改めて感じ、活かすことであり、『人としての生き方を思い出せるような「宇検村人(ひと)」になれる』というのは、どの世代、どの地域に住んでいても、自分らしい豊かな生活ができること、宇検村で充足した暮らしができることではないでしょうか。地理的環境などに左右されず、仕事、子育て、教育の「**選択肢**」があること。宇検村での暮らしを安心して楽しめる「**住まい**」と「**つながり**」があること。それが、自ら考え行動し、生活を営む「**生きる力**」を養えると考えます。また、出郷者や2世、3世など村に縁のある人たち、宇検村に興味がある人たちが、ただ滞在するだけでなく宇検村と関係を構築できる「**関わりしろ**」をつくりことで、関係人口から活動人口、定住人口の増加につなげます。



3-2 4つの基本目標

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため、5原則(自立性・将来性・地域性・直接性・結果重視)に基づきつつ、関連する施策を展開することとしており、以下の4つの「基本目標」を設定し、地方における様々な政策による効果を集約し、人口減少への歯止め、「東京一極集中」の是正を着実に進めていくこととしています。

国の基本目標

- 基本目標1 「稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする」
- 基本目標2 「地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」
- 基本目標3 「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」
- 基本目標4 「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」
- 横断的目標1 「多様な人材の活躍を推進する」
- 横断的目標2 「新しい時代の流れを力にする」

本村においては、国の「基本目標」に対応する形で、以下の4つの基本目標を設定します。

基本目標1	仕事の選択肢があるむら	農業や観光業を強化し、仕事の多職化を図ります。また村の資源を活かした仕事を創出し、働きやすい環境を整備します。
基本目標2	村の魅力を活かした、関わりしろがあるむら	自然や文化、伝統行事など村独自の特色を活かした観光や交流事業を実施することにより、移住定住にむけた関係人口の増加を図ります。
基本目標3	子育てと学びの選択肢があるむら	結婚・出産・子育てにおいて地方格差解消に取り組みます。また、子どもたちが「帰ってきたい」と思える環境と教育の充実を図ります。
基本目標4	次代を担う力を育み、結いでつながるむら	住まいの充実と多世代交流拠点等を整備し、各集落で安心して暮らせる環境を整備します。また、買い物や移動等、生活における障壁の解消を図ります。

3-3 総合戦略の全体指標（KPI）

基本目標の実現に向けて、全体の指標を設定するとともに、具体的事業についても重要業績評価指標(KPI)を設定して取組を進めていきます。

全体指標として令和7年度から令和10年度までの4年間でめざす村の姿を数値化し、本戦略の指標とすることで、効果的に事業を実施していきます。

そのため、「新たな就業」、「関係人口」、「活動人口」を総合戦略の横断的な3つ指標として掲げ、めざす姿の達成に向けて事業を展開していきます。

3つの指標

指標1 移住し、定住した人口が1.2世帯^{※1}

指標2 村民が「家と職場以外で村内で過ごす場所、機会が増加」が7割^{※2}

指標3 村民が「宇検村に住み続けたい」20代—30代が7割^{※2}

※1…定住は、転勤等での移住ではなく、3年以上宇検村に住み続けている状態を指す

※2…村民へのアンケート調査で令和7年度と比較

4. 基本目標ごとの具体位的施策

4-1 仕事の選択肢のあるむら

宇検村にすでにある農業や観光業を強化しつつ、あらたな事業の立ち上げ支援やデュアルワークの推進など仕事の多職化を図ります。あわせて時間単位の働きかたや保育所の運営など働きやすい環境づくりを進めます。

プロジェクト①仕事の多職化・魅力化プロジェクト

事業名	事業概要	目標値	担当課
宇検村農業活性化事業	農作業の受託拡大による遊休農地の有効活用、村独自の助成制度による新規就農者の定着により、村内における農業の活性化を図る。また、(株)宇検村元気の出る公社の自社農場の運営や、村営農場の稼働を実施することにより、機動力のあるモデル事業として示す。	新規就農者数 2人 (R10)	産業振興課
新規就農者支援事業	農家人口が減少するなか、新規農家を増やすために若手農家をモデルとして支援、成果をだすことで農業への意欲向上、新規就農者の増加を図る。	新規就農者数 2人 (R10)	産業振興課
地域課題解決型事業の推進	民間事業者とともに、空き家対策や新規産業の立ち上げ等地域の課題解決につながる事業を協働で推進する。	民間事業者との協働事業 累計 3件 (R10)	企画観光課
地域貢献活動応援制度・しごとのマッチング事業	行政職員が公益性の高い活動に副業として参画できる制度づくりを推進する（また、農業等の繁忙期などの短絡的な仕事の求人情報の発信とマッチングを行うプラットフォームを検討・構築する）。	制度利用者 4人 (R10) 利用実績 10件(各年)	企画観光課

プロジェクト②宇検村観光立村推進プロジェクト

事業名	事業概要	目標値	担当課
新規観光業起業家支援事業	県内外の観光客をもてなす新たな取組や特産品開発・加工販売を実施する起業家 及び宇検村の特産を使った飲食店、小さな拠点づくりに積極的に参画する起業家に対し支援を行う。	起業件数 3件	企画観光課

プロジェクト③地域産業振興プロジェクト

事業名	事業概要	目標値	担当課
プレミアム付商品券事業	プレミアム 10%以上の商品券(プレミアム分は村が補助)を発行し、村内商工業者からの購買額を増やし、経済循環を促す。また、オンライン等も検討し利用者拡大を目指す。	利用総額 4,500万(R7) 7,200万(R8-R10)	企画観光課

4-2 村の魅力を活かした関わりしろのあるむら

宇検村の自然環境や伝統文化や郷土料理などの文化を活かした観光や交流事業を実施することにより、移住定住にむけた関係人口の増加を図ります。

プロジェクト①うけん観光振興プロジェクト

事業名	事業概要	目標値	担当課
宇検村観光ガイド育成事業	宇検村で営業している観光ガイドと着地型観光の商品化を行う。また、集落案内ガイドとして育成し、宇検村観光物産協会を総合案内窓口とした観光ガイド業での雇用を創出する。併せて、今後増加が予想される外国人観光客の為に通訳兼ガイドの育成を行う。	宇検村旅行商品販売時のガイド登用数 延べ 50 人	企画観光課
観光施設等整備事業	峰田山公園、湯湾岳展望台公園、屋鈍西古見線(西回りルート)、枝手久島マングローブ植林等を整備し、観光拠点施設、黒糖焼酎工場、やけうちの宿等への導線を確立し、観光客の受け入れ態勢を強化する。	入込客数 90000 人(年)	企画観光課・建設課
無料 Wi-Fi の設置	村内の主要観光スポットおよび各集落拠点施設等に無料 Wi-Fi を設置し、観光客の SNS への発信を促すとともに、SNS 発信に伴うさらなる観光客の呼び込みを図る。	Wi-Fi 設置箇所 16 箇所 (R10)	総務課
合宿誘致推進事業(奄美大島満喫ツアー助成)	民間企業と協力しながら、継続して島内外の合宿を呼び込み、交流人口や関係人口、および宿泊者の増加を図る。また、奄美大島満喫ツアー実行委員会(奄美大島 5 市町村で設置)が実施するツアーへ助成し、観光客の増加を図る。	10 団体／年 1,200 人／年	企画観光課
宮城県七ヶ宿町との交流事業	中学生を対象に冬季七ヶ宿町へ本村の児童を派遣、夏季は七ヶ宿の児童が本村へ来て交流研修を実施している。今後も交流を継続しつつ、より良い交流の形を見出し、交流人口と物産品の販売拡大 および関係人口の創出を図る。	30 人／年	企画観光課・教育委員会
あまみ島博覧会プログラム	ぐーんと奄美(一般社団法人 奄美群島観光物産協会)が主催している「あまみシマ博覧会への体験型観光プログラムの登録を促進し、村内への観光誘致を図る。	15 プログラム (R6)	企画観光課
宇検村観光拠点施設事業	ケンムンの館、および結いの館を、情報提供、観光案内、アクティビティ用品の貸し出し、小規模イベント会場、村民と来訪者の交流の場として運営し、より多くの観光客の呼び込みや、行動範囲の拡大を図る。	利用者数 5 万人／年	企画観光課
国際サシバサミットの開催及びサシバ観察会事業	奄美 4 市町村の協力のもとサシバ越冬地及びサシバの生息環境保全に関する啓発イベントを開催。	サシバ観察会参加者 各年 50 人	企画観光課
シマ文化体験交流事業	各集落での八月踊りやシマ唄、タナガとりや島料理づくりの体験などをプログラムとして提供。	旅行商品販売プログラム数 20／年	企画観光課・教育委員会
グリーンスローモビリティ事業	村内主要施設を巡回するグリーンスローモビリティを運用し、観光客に対する交通の 利便性を図る。	観光客利用者 100／年	企画観光課

プロジェクト②移住・定住推進プロジェクト

事業名	事業概要	目標値	担当課
地域おこし協力隊の活用	本村の地域おこしに意欲のある都市部の人材を呼び込み、その定住・定着を図ることで村内各集落の維持・強化につなげる。また、隊員の定住を促すために、村独自の支援助成等も制定する。	2人以上 (R7)	企画観光課
地域おこし協力隊インターンの活用	若者の移住・定住促進のため地域おこし協力隊インターン制度を活用し人口減少の抑止につなげる。	20人 (R7～R10)	企画観光課
地域プロジェクトマネージャーの活用	関係者間を橋渡ししつつプロジェクトをマネジメントできる「ブリッジ人材」について、「地域プロジェクトマネージャー」を活用し、新たな人材流入を図る。	1人以上 (R7)	企画観光課
親子山村留学事業の拡充	2校区で実施している親子山村留学の実施状況を分析し、内容を更新・拡充することで本村への移住を推進する。併せて、村内の就業先の開拓、公営住宅の建設や小規模住宅改修などによる住宅の確保、空き家情報の収集等、一元的な管理及び情報の発信を行う。	2世帯／年	教育委員会
個人事業者等移住支援事業	フリーランスやワーケーションなど、仕事を持ったままの移住者が働きやすくなるよう、Wi-Fiの整備などの環境づくりによる助成を行う。 また、小規模・個人事業としての起業を考えている移住者の助成を行い、新規事業者の移住増と事業者による経済活性化を図る。	個人事業主の移住数 3件	企画観光課
Wa-san-chu(若い人)し、つな Go!プロジェクト	村外の若者出身者ネットワークの構築、および交流イベントや事業者マッチングイベントを開催し、Uターンにつなげる。	イベント開催数 2回／年	企画観光課
宇検村移住・交流推進事業	宇検村内で若者の出会い結婚を支援するイベントを実施し、移住希望者や若者の結婚の希望を叶えるとともに、交流人口を増やす。また、村外からのイベント参加者を募ることで、宇検村の魅力をPRし、関係人口の創出を図る。	各年 2人	企画観光課
やけうちどんと祭り実施事業	年に1度の花火大会を開催し、地域の活性化や村外からの人の呼び込み、宇検村の魅力PRし交流人口・関係人口の創出につなげる。実績を積むことで年々減っている寄付の増額につなげる。また、花火大会と絡めたイベントを開催し、花火以外での集客も期待できる。	来場総数 6000人	企画観光課

4-3 子育てと学びの選択肢があるむら

結婚・出産・子育てにおいて地方格差解消を図ります。また、子どもたちが「帰ってきたい」と思える環境と、さまざまな学びのある村をめざします。

プロジェクト①子育て支援プロジェクト

事業名	事業概要	目標値	担当課
各種子育て支援金の助成	子どもの健やかな成長のための現行の経済助成の見直し・拡充を行う。（18歳までの医療費／出産・入学祝い金支給／中学3年まで助成金支給／小中学生バス利用時の助成／3名以上子育てしている世帯に対し住宅家賃の助成）	子育て世代の転入世帯数（転勤を除く） 1世帯／年	保健福祉課
島内高校通学者へのバス定期補助の継続	島内高校への通学用定期券の全額補助を継続することで、村内から高校への通学をしやすくし、本村への定住促進を図る。また、高校生活を村内で過ごすことにより、高校・大学卒業後、本村へのリターンを図る。	利用者数 10人／年（月）	住民税務課
学童保育設置事業	学童保育施設を住民のニーズに適切に合わせ、子ども子育て支援計画等に準じて推進し、村内の子どもたちが放課後を安心安全に過ごすことができ、異年齢との交流による多種多様な体験活動を行うことができる総合的な放課後対策を行う。	利用者数 20人／年（月）	保健福祉課
子どもの遊び場	子育て世代が安心して子どもを遊ばせられる場所の整備、および機会を創出する。	令和7年度中に事業検討開始	教育委員会

プロジェクト②学びの選択肢を増やすプロジェクト

事業名	事業概要	目標値	担当課
英語教育支援事業	保育所の年長から小学校3年生までの子どもを対象に英語教育を支援する。	対象児童の応募割合70%以上	保健福祉課・教育委員会・企画観光課
オンライン塾	オンラインを活用し、学習塾の整備などを検討、実証実験する。	オンライン塾 令和7年度中に事業検討開始	企画観光課・教育委員会
生涯学習の充実	公民館講座等にスキルを持った村民（スポーツ経験者、外国人就労者、郷土料理をつくれる高齢者など）が講師となり、さまざまな学びの場を提供する。あわせて大人も交えた部活動のあり方を検討する。	プログラム実施数15件（年）	教育委員会
職場体験プロジェクト	村内在住の中学3年生の希望者を対象に大島本島外での職場体験プロジェクトへの参加。	村内中学年生 3年生全員	教育委員会 保健福祉課 企画観光課 総務課

プロジェクト③結婚・出産促進プロジェクト

事業名	事業概要	目標値	担当課
地域不妊治療支援事業	不妊治療のために島外の病院へ出る方の旅費を助成し、村内での出産への希望を繋ぎ止められるようにする。	利用者数 3人／年	保健福祉課
学童保育設置	（再掲）	利用者数20人／年	保健福祉課

4-4 次世代を担う力を育み、結いでつなげるむら

住まいと多世代交流の機会を充実させ、伝統行事や村の文化継承を図ります。また、買い物や移動等、生活における障壁の解消を図ります。

プロジェクト①安心の住まいプロジェクト（新規）

事業名	事業概要	目標値	担当課
危険廃屋解体撤去補助事業	危険廃屋を解体・撤去する事業に要する経費に対し、予算の範囲内で危険廃屋解体・撤去補助金を交付する。	解体撤去数 3/年	企画観光課
空き家改修事業	村内の空き家を改修し、移住及び定住等の促進を図る。	改修個数 3/年	企画観光課
住宅補助事業	民間が建築した住宅への補助や、一定以上の家賃支払いに対して補助を行うことにより、現役世代の定住促進を図る	8戸	企画観光課

プロジェクト③生活環境向上プロジェクト

事業名	事業概要	目標値	担当課
移動支援事業	自家用有償運送による地域交通ネットワークを改めて検討し、より利便性の高い仕組みを構築する。	有償運送登録者数 20人	保健福祉課 総務課 企画観光課
グリーンスローモビリティ	交通空白の時間でも村内の主要施設を巡回して利便性を図る。	年間利用者数 1,200人	企画観光課
里海づくり事業	人と自然の共生する里海の実現に向け、海の保全と利活用に関する方針と計画を策定し、シマの暮らしを豊かにする。	海に関する生業 新規 5事業	企画観光課
ICT×健康づくり事業	「みんなちやれ」を使った健康づくり・離れた家族、友達ともつながりながら、健康づくり、フレイル予防に取り組む。	参加者数 50人/年	保健福祉課
タブレット等、デジタルデバイスの普及、利活用	スマホを教室等の開催や、健康づくり事業でのタブレット活用によるデジタルデバイスの普及に取り組む。	行政情報の取得時におけるスマホ、タブレットの利用割合 90%(R10)	総務課

5. 総合戦略の推進にむけて

5-1 戦略の効果的な推進にむけて

令和 7 年度から令和 10 年度にかけて、本戦略のプロジェクトを着実に推進していくために、定期的に計画の進捗状況を把握し、目標の達成 状況など成果を検証した上で、事業改善を図る PDCA サイクルにより、毎年度ローリング(見直し)を行い、総合的な進行管理を行います。

このため、各事業の担当課においては、事業の成果検証（レビュー）を定期的の実施し、各事業がどのような目的で実施され、どのような効果を生むのかを明確にし、国の総合戦略の改訂や時代潮流等にあわせて柔軟に戦略を変化させながら、関係団体や住民と一体となった戦略の推進を図っていきます。



令和 7 年 3 月

宇検村